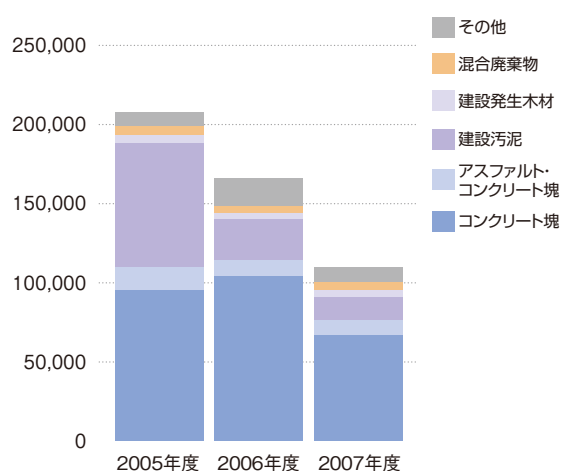


建設廃棄物のリサイクルと再利用

建設廃棄物の発生量

2007年度における建設廃棄物発生量は、11.9万トンで前年度より約4.3万トン減少しています。品目別発生比率は、コンクリート塊が61.4%と最も多く、建設汚泥11.2%、その他廃棄物9.5%、アスファルト・コンクリート塊8.6%、混合廃棄物5.2%、建設発生木材4.0%の順になっています。

建設廃棄物の発生量 (単位: t)



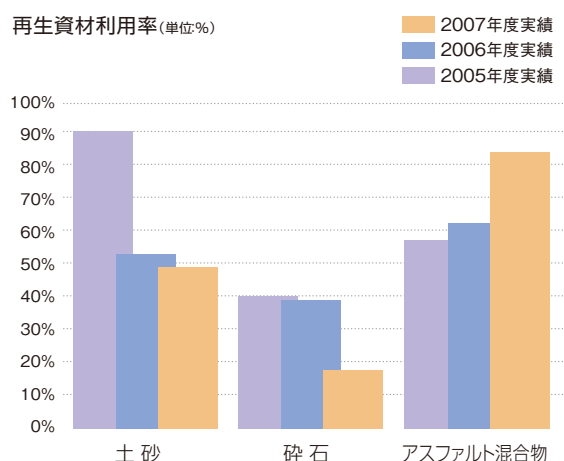
再生資材の利用率

2007年度における建設資材の現場への搬入量は、土砂93.1万㎡ (196.0万㎡)、碎石53.7万トン (13.4万トン)、アスファルト混合物2.3万トン (1.2万トン) でした。

2007年度に搬入した建設資材のうち、再生資源の利用率は、土砂49% (53%)、碎石18% (39%)、アスファルト混合物 83% (62%) でした。

※ () 内は2006年度の実績値

再生資材利用率 (単位: %)



建設廃棄物のリサイクル率

2007年度における建設廃棄物全体のリサイクル率は92%で、2006年度の89%より3%増加しました。品目別では、コンクリート塊は100%、アスファルト・コンクリート塊100%、建設汚泥79%、建設発生木材94%、混合廃棄物44%で、その他の廃棄物は78%でした。リサイクル率では、混合廃棄物が他の廃棄物と比較して低調な傾向にあります。

リサイクル率 (単位: %)

